

|       |      |
|-------|------|
| 普及項目  | 増殖   |
| 漁業種類等 | 採貝業  |
| 対象魚類  | アサリ  |
| 対象海域  | 熊本有明 |

## 宇土市網田地先におけるアサリ養殖試験の取組支援

県北広域本部水産課・高日 新也

### 【背景・目的・目標（指標）】

宇土市網田地先では、網田漁協アサリ研究部会「以下「アサリ部会」という。」が主体となり、資源量の減少が著しいアサリの母貝場を創出するため、網袋等を用いたアサリ増殖の取組みを精力的に実施している。

しかし、網袋内の稚貝は、成貝のサイズに達しないまま減耗・へい死してしまう状況が確認されており、新たな母貝場の創出には繋がっていない現状にある。

そこで、当水産課では、網袋から得られた稚貝を成貝へと成長させ、新たな母貝場を創出することを目的として、アサリ部会に対し、カキの垂下式養殖に用いられる養殖カゴ「以下「バスケット」という。」を用いた中間育成の技術指導を開始した。

取組みの初年度となる令和3年度（2021年度）は、特別養殖試験の開始と令和3年（2021年）10月以降、月に1度程度の頻度で技術指導を行い、現地での養殖の可否を模索することを目標とした。

### 【普及の内容・特徴】

バスケットの設置方法を検討するため、養殖試験の開始に先立ち、令和3年（2021年）6月から8月にかけて、アサリ部会とともに、小規模な試験を実施。9月には、その結果を用いてバスケット養殖の技術者（販売代理店）らと情報交換を行うなどして、アサリ部会が養殖試験を開始する準備を整えた。

養殖試験は令和3年10月に開始し（図1）、その翌月から令和4年（2022年）1月にかけて、月に1回程度現地調査を行い、バスケット内のアサリの生残率や成長を把握した。

### 【成果・活用】

令和3年（2021年）10月から令和4年（2022年）1月にかけて、バスケットによる中間育成を行った結果、殻長12mm及び殻長15mmで育成を開始した試験区においては、生残率が80%程度となり、良好な結果が得られた（図2）。一方で、殻長9mmで育成を開始した試験区においては、12月にへい死が発生し、生残率が40%程度であったことから、一定の大きさに達しないアサリは、バスケットによる中間育成に適しないと考えられた。

また、成長については、いずれのサイズの試験区においても、期間を通して殻長、殻幅、重量の伸長や増加がみられず、この期間の中間育成中は成長が抑制されている状態にあったと考えられた（図3～図5）。

令和4年度（2022年度）以降は、今年度の結果を活用し、本格的なアサリ養殖の実現に向けた新たな試験について、アサリ部会と検討を行う予定である。

### 【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

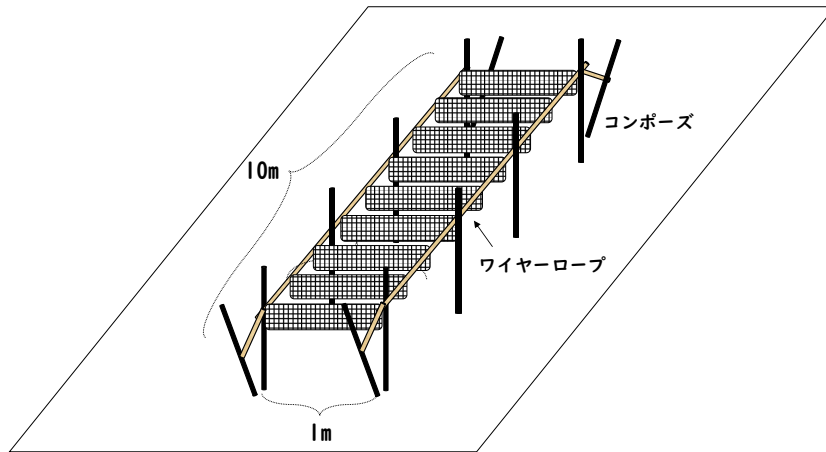


図1 試験区の設置方法

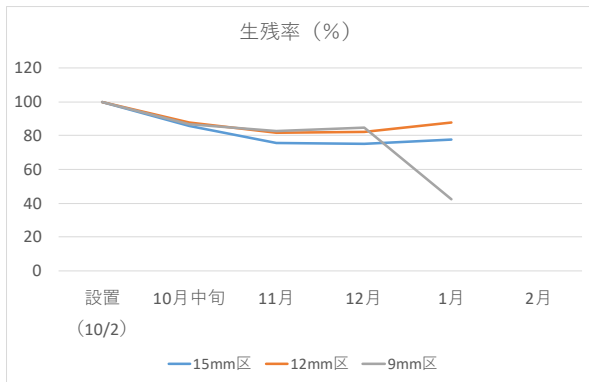


図2 生存率 (%) の推移

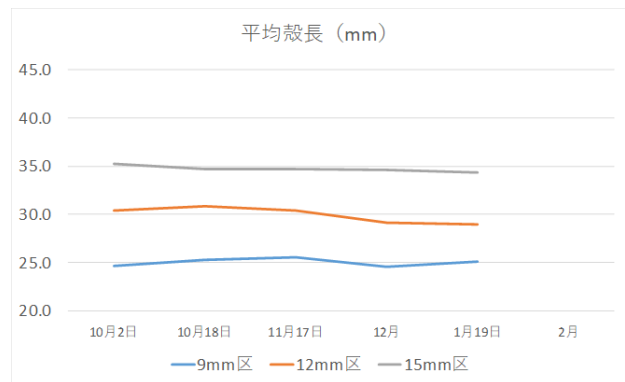


図3 平均殻長 (mm) の推移

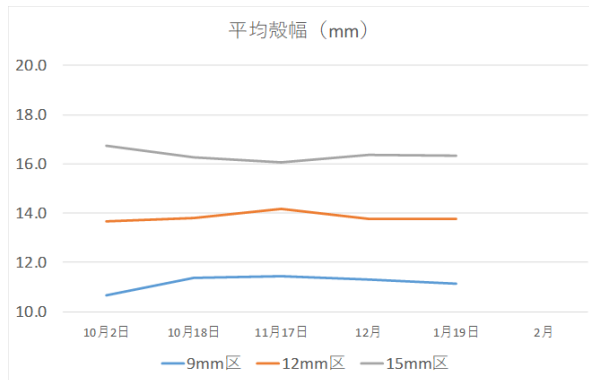


図4 平均殻幅 (mm) の推移

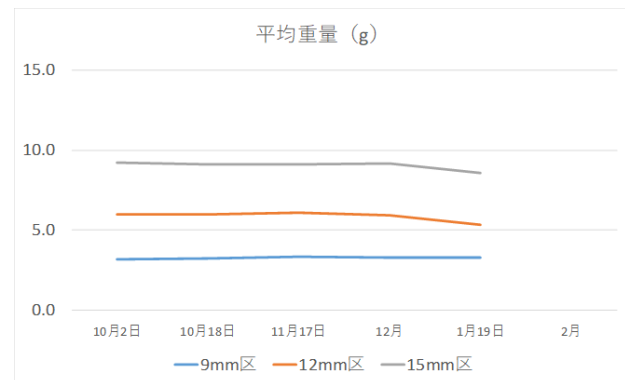


図5 平均重量 (g) の推移



図6 設置状況 (R3.10.2)



図7 設置状況 (R4.1.19)